学校法人茂来学園

事業報告

（2022年度）

目次

1.事業概要

＜1.1.2022年度の茂来学園の取り組みについて＞

＜1.2.2022年度の大日向小学校の取り組みについて＞

＜1.3.2022年度の大日向中学校の取り組みについて＞

2.収支

＜2.1.資金収支収支計算書の概要＞

＜2.2.事業活動収支計算書の概要＞

＜2.3.事業活動収支計算書に関する補足説明＞

＜2.3.3.収入／増加要因＞

＜2.3.4支出／増加要因＞

3.教育活動

＜3.1.1.カリキュラムの概要（小学校）＞

＜3.1.2.小学校の取組＞

＜3.1.3.カリキュラムの概要（中学校）＞

＜3.1.4.中学校の取組＞

＜3.2.保護者との連携＞

＜3.3.給食（大日向食堂）＞

＜3.4.スクールバス＞

4.教育関連活動

＜4.1 募集＞

＜4.2 寄付募集＞

＜4.3 授業料等減免制度＞

＜4.4 主催事業＞

5.学校運営

＜5.1 財務・会計・経理＞

＜5.2 人事・労務＞

＜5.3 施設・設備＞

＜5.4 総務＞

＜5.5 校務＞
＜5.6 法務＞
＜5.7 広報＞
＜5.8 情報システム＞
＜5.9 渉外＞

6.中期ビジョン

7.附則
＜7.1.建学の精神＞
＜7.2.大切にしたいこと＞
＜7.3.イエナプラン20の原則＞
＜7.4.法人概要＞
＜7.5.1.職員組織（小学校）＞
＜7.5.2.職員組織（中学校）＞
＜7.6.在籍数＞

1.1.2022年度の茂来学園の取り組みについて（理事長　中正雄一）

大日向小学校は、2022年で開校4年目を迎えました。
そして、4月には小学校に続き日本で初めてのイエナプランを実践する中学校として、「大日向中学校」を開校いたしました。小学校・中学校ともに新たに校長を迎え、イエナプラン教育を基に”茂来学園らしい”学校づくりに励んでおります。
しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響は続き、保護者や地域の皆さまとの関係性づくりが思ったように進められませんでした。
子どもたちの学びと成長には身近な地域の方達との関わりはとても重要であり、また、保護者の協力なくして学校運営は成り立たないと思っています。「対話」の場を十分に用意することができなかったことは、学校側の課題として残りました。
また、もう一つ課題があります。
開校4年目を迎えましたが、当学園の財務基盤はまだまだ盤石ではありません。
安定的な運営を行っていくためにも、中長期の視点を持って、収入増加を図る施策を打っていく必要があると考えています。
そのような中でも、茂来学園として大きな取り組みを進めております。佐久穂町にある旧佐久西小学校をプロポーザルにて選考していただき、高校開設に向けて一歩前進することができました。子ども達が進む選択肢の一つとして、今後、中等教育学校として開校できるように動いてまいります。
今後も、建学の精神「誰もが　豊かに　そして幸せに生きることのできる世界をつくる」の実現に向け、イエナプラン教育に基づく学校づくりを教職員、子ども達、保護者、地域の皆さま、行政の皆さまと共に取り組んでまいります。

1.2.2022年度の大日向小学校の取り組みについて（小学校長　久保礼子）

開校4年目に入り、イエナプランスクールとしての本校の在り方が、子どもたちの中に文化として根付いてきています。サークル対話の自然な様子や、活動による1日の流れがリズムとして定着していることや、人との比較ではなく自分を評価できたり、自分自身の言葉で伝えたり表現したりすることができてきていることなどから、そのことがわかります。
2022年度は、個の学びの質の向上を目指して取り組みました。グループリーダーを2人体制にしたことは、各ファミリーグループの安定や、個別支援体制の充実につながり、個の学びの向上に一定の成果を上げました。その一方で、協働的な学びの充実への課題意識がクローズアップされてきています。個別学習と協働での学びの双方が子どもたちの成長に欠かせないことを踏まえ、振り返りや研修を重ね、実践に取り組みました。これは来年度も引き続き取り組んでいくテーマとなっています。

保護者との連携については、コロナ禍でかなり制限されてきた校内での活動が緩和されたことで、徐々に交流がしやすくなってきました。しかし、もっと学校の考え方を発信することや、保護者の想いを率直に伝えてもらう機会を作っていく必要があります。また、職員の協働しやすい環境、少し体を休めることができるゆとりや環境作りにも引き続き取り組んでいきます。

1.3.2022年度の大日向中学校の取り組みについて（中学校長　長沼豊）

大日向中学校は、2019年度から3年間の大日向小学校の成果（中等部としての2年間の実績も含む）を踏まえ、1年生13名、2年生4名、3年生5名、計22名の入学者を迎え、2022年4月に開校しました。
イエナプランの20の原則やコア・クオリティ、さらには大日向中学校で大切にしている「自立する、共に生きる、世界に目を向ける」のコンセプトを実現することを主軸に据えて教育活動を行ない、イエナプランスクールとしての基盤を確立することを企図しました。
全職員が全生徒に関わる中学校の特性を生かして、グループリーダーを中心にして 徹底的に個に寄り添う教育を展開した結果、学校に行きにくかった生徒も登校してくれるようになりました。
主体的・対話的で深い学びを実現し、個別最適な学びと協働的な学びを融合させる素地ができあがりました。イエナプラン教育としての理想的なカリキュラムをどう創るのか、目の前にいる生徒の実態に合わせて年度途中であっても何度か柔軟に修正してきましたが、今後の課題となっています。

2.1.資金収支計算書の概要

（単位：千円）

科目				
収入の部	予算	本年度決算 （A）	前年度決算 （B）	差異 （A）－（B）
学生生徒納付金	60,924	61,397	55,733	5,664
手数料収入	3,060	3,080	1,680	1,400
寄付金収入	340,545	334,007	125,556	208,451
補助金収入	51,165	51,165	43,462	7,703
付随事業・収益事業収入	17,810	17,817	12,256	5,561
受取利息配当金収入	0	1	0	1
雑収入	370	382	114	268
前受金収入	8,483	8,494	3,380	5,114
その他収入	24,609	24,627	37,479	-12,852
資金収入調整勘定	-6,370	-6,335	-10,016	3,681
前年度繰越支払資金	24,467	24,467	15,153	9,314
収入の部合計	525,062	519,101	284,797	234,304
支出の部				
人件費支出	119,800	119,472	116,903	2,569
経費	103,676	95,367	68,483	26,884
施設関係支出	256,000	255,581	49,258	206,323
設備関係支出	6,710	4,255	12,076	-7,821
資産運用支出	0	0	0	0
その他の支出	31,276	39,826	39,264	562
予備費	3,000	0	0	0
資金支出調整勘定	-26,971	-26,971	-25,654	-1,317
翌年度繰越支払資金	31,571	31,571	24,467	7,104
支出の部合計	525,062	519,101	284,797	234,304

2.2.事業活動収支計算書の概要

（単位：千円）

科目		予算	本年度決算（A）	前年度決算（B）	差異（A）－（B）
教育活動収支	学生生徒納付金	60,924	61,397	55,733	5,664
	手数料	3,060	3,080	1,680	1,400
	寄付金	340,134	333,597	125,556	208,041
	経常費等補助金	51,165	51,165	43,461	7,704
	付随事業収入	17,810	17,817	12,256	5,561
	雑収入	370	382	114	268
	教育活動収入計	473,463	467,438	238,800	228,638
	人件費	119,800	119,472	116,903	2,569
	経費	103,676	95,367	68,483	26,884
	減価償却費	18,000	17,952	18,001	-49
	教育活動支出計	241,476	232,792	203,387	29,405
	教育活動収支差額	231,987	234,646	35,413	199,234
教育活動外収支	受取利息・配当金	0	1	0	0
	教育外活動収入計	0	1	0	0
	教育外活動収支差額	0	1	0	0
経常収支差額		231,987	234,647	35,413	199,235
特別収支	特別収支収入:施設設備寄付金	410	410	0	410
	特別収支支出：敷金等	135	131	0	131
	特別収支差額	275	279	0	279
予備費		3,000	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額		229,263	234,926	35,413	199,513
基本金組入額合計		0	-256,362	-59,385	-196,977
当年度収支差額		229,263	-21,436	-23,972	2,536
前年度繰越収支差額		0	-38,192	-14,219	-23,972
翌年度繰越収支差額		229,263	-59,628	-38,192	-21,436

2.3.事業活動収支計算書に関する補足説明

事業活動収支計算書は、企業会計では損益計算書にあたります。当該年度の事業収入・支出を3つの活動 ①教育活動収支 ②教育活動外収支 ③特別収支に区分し、それぞれの収支の均衡を明らかにします。この計算書では、学校法人の財務の状況を把握することができます。

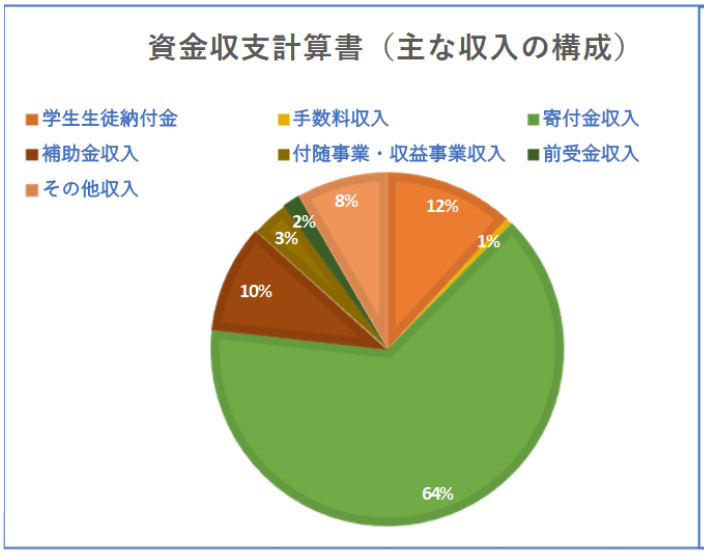
2.3.3.収入／増加要因

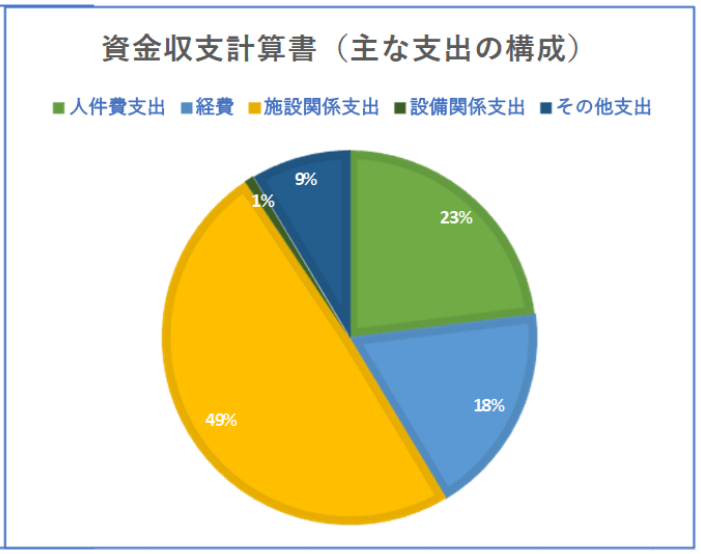
児童生徒数の増加に伴い、児童生徒納付金が約6百万円、補助金収入が約8百万円、給食バス収入が6百万円、中学校設立準備のため寄付金が2億1千万増加いたしました。

2.3.4.支出／増加要因

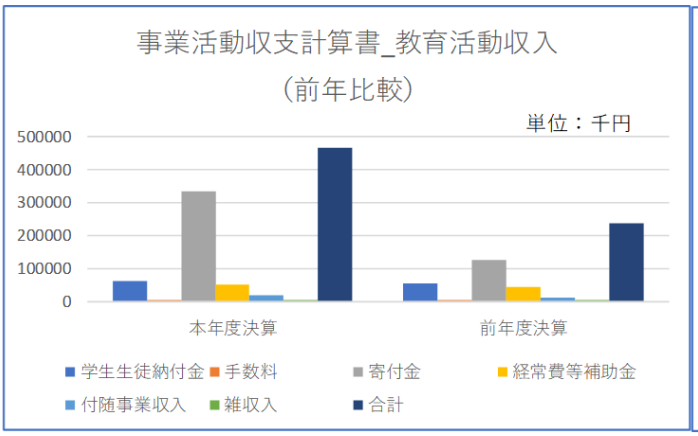
児童生徒数の増加および教育活動充実のため教職員を増員し人件費が約3百万、中学準備のための備品購入、次年度中学校開校対応のため大型浄化槽への入替等を行い経費支出が約27百万円増加いたしました。

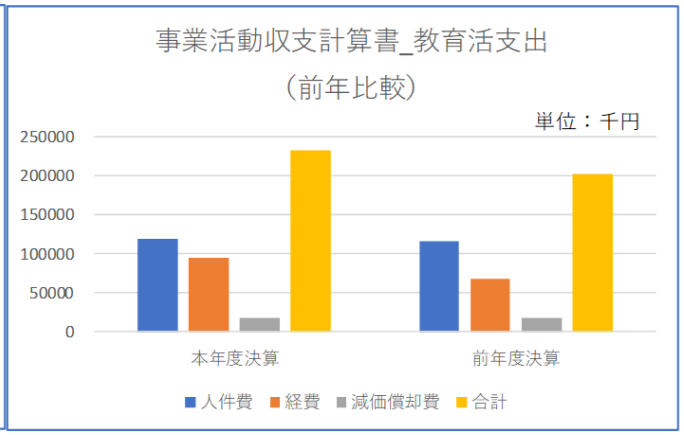
【資金収支計算書の主な構成】





【事業活動収支計算書_収入と支出を前年比較】





3.1.1.カリキュラムの概要（小学校）

本校では、イエナプランスクールとして3つのコア・クオリティを大切にし、以下の教育活動を行なっています。

①自立した学び手となる

- 子どもたちは、日々の学習活動の中で、自ら選択し計画的に学習に取り組む
- 子どもたちは、自分自身の長所や短所を知り、特性を活かして学ぶ
- 子どもたちは、自分の発達についてリフレクションする

②他者との関係を大切にし、他者との関係の中で学んでいく

- 子どもたちは、異年齢グループの中で互いの違いから学ぶ
- 子どもたちは、学習活動を通して協働することを学ぶ
- 子どもたちは、学級活動の中で、お互いの成長に対して責任を持つことを学び、ともにルールをつくる

③自分たちが生きている世界に目を向ける

- 子どもたちは、ホンモノを通して、経験的に学ぶ
- 子どもたちは、自分自身の問いを持って学びに向かうようはたらきかけられる

具体的には、サークル対話、仕事（ブロックアワー、ワールドオリエンテーション）、遊び、催しの4つの活動を通して学んでいます。

【ブロックアワー】

主に教科学習を通して基礎的な学力をつけ、学び方を学ぶ。個別学習や、インストラクション、協働的な学びなど、様々な形態で学ぶ。週計画表を持ち、自分の選択、ペースを大事にしながら、責任を持って学習することを学ぶ。１週間の課題の大枠や単元の目標は、学習指導要領や年間カリキュラムに基づきグループリーダーが示す。

【ワールドオリエンテーション】
共通のテーマ（年間5～6本）について探究する。探究のプロセス（問いを持つ・仮説を立てる・実証する・発見する・共有する）を大事にし、探究の仕方を学ぶ。協働を学ぶ。ブロックアワーで学ぶ基礎的な学力や教科の力を活用する場であり、基礎的な学力や教科の中で得た力を強化する場である。

【サークル対話】
聞く、話す、意見・考えの違いを理解する、コメントを伝えるなどの練習の場。
タイムリーな内容や、曜日毎に決まった内容に沿って行うなどする。
《テーマの例》週末どうだった？音楽サークル、読み聞かせ、時事サークル、哲学サークル、遊びサークル

【遊び】
個々の好奇心が最も現れる場と捉えよく観察する。遊びを通して発散し、身体、心を元気にする重要な時間。

【催し】
お互いの学びをシェアする場であり、共感の場ととらえる。
週に1回ほど、クラスや学年や全校で行う。

3.1.2.小学校の取組

上記のように、4つの活動を通して、子どもたちは異年齢のグループで学んでいます。それぞれ自分の課題を持ち主体的に判断して学ぶことが求められます。その中では、自立的に楽しく没頭して学べている場面もあれば、どこか学びにくさを感じていると思われる場面も見受けられます。

特にブロックアワーにおける学びにくさの中身として考えられるのが、

・自立的に学ぶこと自体が難しいと感じている。

・内容や進度が違うので、個別で学ぶことが多くグループリーダーや友達に聞きにくい。

・教材や課題の選択肢が少ない。　などです。

2022年度の実践を通して、自分自身の学びに向き合う姿が増え、個別の学びの成果は上がってきた一方で、学びが個別になりがちで、協働的な学びや、深く思考していく学びがもっとあるといい、という振り返りが子どもやグループリーダーから出されています。また、教科学習に力を入れることができた一方で、下学年では、3年生が忙しい（理科、社会、外国語活動など3年生だけが取り出される時間が増えて、ブロックアワーの時間が少なくなってしまった）、上学年では、学年単位の時間が増えたという課題も出てきました。

今後、ファミリーグループでの時間が確保され、子ども同士の関係性がもっと深まると良いと考えています。学校教育法で定められた「一条校」としてのスタンスは大事にしながら、イエナプランスクールとしての大日向小学校の特性を活かした柔軟なカリキュラムを作っていくことに、今後さらに力を入れていきます。

3.1.3.カリキュラムの概要（中学校）

大日向中学校では、大日向小学校（中等部での実践を含む）の手法を踏襲し、午前はブロックアワー、午後はワールドオリエンテーション及び音楽、美術、技術・家庭科などの教科という設定で時間割を組んでいます。

小学校と異なり、午前は3コマ、午後は3コマです。学校教育法で認められた「一条校」であるため、学習指導要領に示された学習内容は網羅できるように教育課程を編成しています。

毎週木曜日の教職員ミーティングで翌週の時数をカウントし、年間時数を確保できるように配慮し日本の中学校に合った教育課程のあり方を模索しています。

3.1.4.中学校の取組

生徒の基礎学力の向上を図りつつ、自立的に学ぶことを支援するため、自由進度で取り組む課題を提示しブロックアワーの時間に学習する形態をとりました。イエナプランのハートであるワールドオリエンテーションでは、プルーンの栽培、収穫、仕分け、パック詰め、販売までの一連の工程を体験する活動や、大日向の自然や歴史について班ごとに調査し、まとめ、発表する学習、職場体験を含めたキャリア学習等を実践しました。
地域との連携・協働を生かして、保護者や地域の人々をゲストで招いたり、オンラインで繋がったりする学習や、現地に出かけていきホンモノに触れる校外学習を頻繁に実施しました。
学校行事としては、開校を祝う会や、小学校と合同で実施した運動会と大日向交流会で生徒が主体的に準備や当日の運営に参画することで、主体性や企画力、実行力を育むことができました。
部活動を実施しない本校では、代わりに小学校と同様、必修のクラブ活動（特別活動）を隔週で1時間導入しました。
どのようなクラブを作るかから話し合って決め、自分たちで運営することにより主体性を養いました。

3.2.保護者との連携

建学の精神、イエナプランの20の原則、コアクオリティに基づき、子どものより良い発達のために、保護者とのパートナーシップを大切にしています。
しかし、コロナ禍もあって、学校の様子がよくわからない、先生方と話をする機会が少ないなどの保護者の声があり、保護者と十分なコミュニケーションが図れているとは言い切れないのが現状です。
本校の特徴は、保護者の組織を保護者自身が作ってきた点です。
ファミリーグループを手伝ってくれる保護者が、FGS（Family Group Supporters）として各ファミリーグループにいます。また、PSS（Parents Session Supporters）として学校全体に関わる協力をしてくださる方々もいます。
PTAは組織されていませんが、「学校セッション」（子ども、保護者、教職員、理事の4者で様々なテーマで話をする会）と、「共に学校をつくる対話の会」（学校と保護者とが話をする会）が、前者は年に3回、後者は年に4回それぞれ開かれています。

そして、それらの会から出てきた課題やアイディアを活かすために、開校からここまで、たくさんの保護者プロジェクトが生まれ、活動しています。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
（順不同）入学移住応援隊、防災プロジェクト、サポート委員会、校庭魅力化プロジェクト、寄付プロジェクト、農業部、子どもサポートプロジェクト、図書部、おおひなたより、掃除プロジェクト、いのちとからだを大切にする心の教育プロジェクト、断熱DIYプロジェクト、草刈隊、ほか。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
こうしたユニークな保護者組織に本校は大いに支えられています。
課題としては、学校の母体が大きくなったことで保護者の横のつながりが以前ほど密に取りにくくなってきたことです。来年度に向け、保護者同士のつながりが生まれやすい企画を積極的に行なったり、組織の見直しをしたりする取り組みをゆっくり進めていきます。

3.3.給食（大日向食堂）

大日向食堂は、UDS株式会社に委託し児童生徒・職員に「学校ごはん」（昼食）を提供しました。
管理栄養士による献立作成と調理に基づき、一般的な「給食」ではなくランチルームでの「準バイキング形式」での給食提供を実施しています。
また、食物アレルギーに関するアンケートや面談、アレルギー対応献立表の作成、養護教諭を始めとした教職員との「学校生活管理指導表」を用いた情報共有、加工食品原材料一覧、対応指針を明示・開示するなど、児童生徒の個別の状況に配慮した「食の安全」の確保に取組みました。
日々の献立をInstagramで配信、毎月の献立と食堂だよりを配布するなど情報公開とコミュニケーションを推進しました。また佐久平総合技術高校食品加工部と共同でレシピ開発を行うなど、児童生徒を中心にした「食育活動」にも取組みました。

3.4.スクールバス

教職員と委託業者（佐久平観光）を運転手に、通学や校外学習の手段としてバスを活用しました。

児童生徒から納付されるスクールバス収入は約5百万円に対しスクールバス運営にかかる支出は12百万円でした。

【1】運行台数

５台で運行（学校保有４台、佐久平観光保有１台）

＊このほか学校保有の車両（旧げんでる号）１台

【2】運行経路

＜通学手段としての利用＞

佐久平駅⇔学校　1往復（2台）

地域振興局⇔学校　1往復

佐久穂町子どもセンター⇔学校　3往復

＜通学手段以外の利用＞

プール学習の送迎（シーズン中週3～4日）

校外学習の送迎（月に5～10機会程度）

【3】ドライバー

学校職員（後藤、河合、宅明）

委託（岩崎）

佐久平観光（２名）

4.1 募集

2022年度、小学校の応募総数は153名、入学者数は50名でした。

内訳は新1年生の応募者数が91名、入学者数が30名、新2年生以上の応募者数が62名、入学者数が20名でした。

中学校の応募総数は17名、入学者は16名（新1年生15名、新2年生1名）でした。

内訳は外部からの応募者数が8名、内部からの応募者数が9名でした。

4.2 寄付

2022年の寄付状況は下記の通りです。

・一般からの寄付

＜寄付金額＞ 118,420,772円（決算前暫定数値）

＜寄付者＞15名

・その他（受配者指定寄附金）

＜寄付金額＞ 16,000,000円

＜寄付者＞2名

※このほかに、佐久穂町ふるさと応援寄附金を用いた寄付を頂戴しています。

4.3 授業料

＜小学校＞

入学金　100,000円

授業料　年額 420,000円（1ヶ月あたり35,000円）

施設維持費　年額75,000円

教育活動費（教材費、校外学習費等）　年額45,000円

このほかに、昼食代（1ヶ月あたり6,000円程度）、スクールバス利用料（利用者のみ）等がかかります。

＜中学校＞

入学金　100,000円

授業料　年額480,000円（1ヶ月あたり40,000円）

施設維持費　年額75,000円

教育活動費（教材費、校外学習費等）　年額45,000円

このほかに、昼食代（1ヶ月あたり7,000円程度）、スクールバス利用料（利用者のみ）等がかかります。

5.1 財務・会計・経理

学校事務室による授業料等の集金、学校法人事務室による法人全体の経理財務の予実管理を実施しました。
学校法人の会計ルールに基づき財務諸表を作成、予算作成から執行について理事会から評議員会に諮問、監査を受け、適時適切に決算し、学校ホームページにて公告しました。

5.2 人事・労務

教職員の採用については学校法人事務局が主体となりながら学校事務室が連携し、常勤・非常勤職員の採用活動を実施しました。
また勤怠管理や労務管理はITシステムを導入、教職員自身による勤怠時間の管理と業務の効率化を進めました。
次年度は事務作業の更なる改善を図るため、学校事務室と社労士・税理士との連携を深め、特定の職員に負担が集中しないよう業務の平準化を進めます。
また、人材不足による教職員の業務負担が過度にならないよう、昨年度・今年度同様にインターンや学習サポーターの登用を進め、教職員の働き方を改善していきます。

5.3 施設・設備

児童・生徒・教職員の増加に伴い、駐車場の確保に課題がありました。イベントごとがある場合は、保護者と教職員が協力し、スムーズな駐車が可能になるよう、地域住民の皆様にも駐車場所を提供していただきながら安全な送迎ができるよう取り組みを進めました。
特に学校敷地内の遊具等については保護者を中心とした「校庭魅力化プロジェクト」により児童生徒も参加する遊具づくりを実施、同様に学校敷地内の美化活動には男性保護者が中心となり、複数回の「草刈りプロジェクト」を実施しました。

5.4 総務

学校事務室、教職員が連携しながら、資産・消耗品における利用・保管方法に基づき管理しました。特に消耗品については予実管理を徹底するために、年間での予算案を教職員間で共有し、学期ごとの振り返りを実施しました。
保護者・行政等からの各種申請業務は、学校事務室と教職員との連携をもとに効率化を進めていますが、イレギュラー対応を求められる案件については手順化・標準化を進めて

いくことが課題です。

5.5 校務

今年度前半は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け短縮時程や学年閉鎖などを実施したが、オンラインでの対応を継続するなど教育活動・学校運営を行うことができました。
安全学習や訓練等については消防署や警察署など、行政とも連携し年間を通じて概ね滞りなく実施することができました。

5.6 法務

関連法規や寄付行為等に則った学校経営を行うため、各種規程・規則の整備を進めました。（寄附行為・学則・就業規則・介護休業規程・育児休業規程等）
次年度もこれらの各種規定等の情報公開を進め、適時の見直しを進められるよう引き続き丁寧な法務処理に努めます。

5.7 広報

ホームページ・メールマガジン・Facebook・Instagram・Twitter（中学校のみ）を通じて教育活動を発信しました。各種メディア（新聞、雑誌、ウェブ記事、テレビ）にも取り上げられ、教頭を中心とした広報チームにより編集・校正に取り組みました。
また保護者と教職員で執筆・編集に取り組む「おおひなたより」も発行され、校内関係者限定で配信され、大日向地区にお住まいの方には「学校新聞」を毎月発行、全戸（約280戸）に配布しました。

5.8 情報システム

校内での教職員の情報共有はWorkplace、児童生徒の個別の情報共有はKintone、クラウドでのデータ管理はGoogleドライブを使用しました。
校務支援について本年は「プランプラン」を導入・運用しペーパーレスを推進しました。
各種ITツールの活用は進んでいますが、次年度に向けて情報管理方法・運用方法について精査が必要であり、属人的になっているシステム管理のあり方を見直す必要があります。

5.9 渉外

校長と地域連携ファシリテーターによる、行政・地域・保護者間のコミュニケーションを積極的に図りました。佐久穂町役場をはじめ、関係する機関と適切に連携できた1年でした。
新型コロナウイルス感染症の影響も考慮しながら「運動会」「大日向交流会」も再開、地域に開かれたイベントも再開を始めた1年でした。次年度はより一層、近隣住民や近隣校との関係を構築できるような取り組みを続けます。

6.中期ビジョン

2019年、大日向小学校は開校しました。
日本で初めてのイエナプランスクールとして、70名の学校としてスタート。
2022年には中学校も開校しました。
次の中期ビジョンとして、建学の精神（誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界をつくる。）に則り、イエナプランの原則を常に確認しながら、以下のような学校を目指します。

①子どもも大人も「楽しい！」と思える学校
私たちは子どもたちを中心に据えて、楽しさを感じられるような学びの環境を整えます。楽しさとは、刹那的で一時的な歓心に留まらず、未知のことに対する知的好奇心や、自然な対話から生まれる他者・環境に向けられる興味や関心を意味します。児童生徒も含め、関わる人達による不断の努力に基づいた楽しさにあふれた学校を目指します。

②創造する喜びにあふれる学校
すでにあるものを享受し、消費・浪費するような受動的な学びではなく、新しい価値を生み、深い洞察や発見が伴う探究心あふれる主体的で能動的な学びを大事にします。「学力」を知識や情報を獲得するための能力に留めず、誰もが豊かに、そして幸せに生きるための世界をつくるための能力として捉え、児童生徒をはじめとする関わる人達すべての「らしさ」を尊重する学校を目指します。

③社会と共にある学校
個人の自由が尊重され、児童生徒・保護者・教職員・地域の皆さん始め関わる人達と、より好ましい関係を築くことを重視します。「学校」が単独で存在するのではなく、社会の変化に柔軟に適応し、創発的・有機的な学習の場として機能するように、創意工夫を惜しまず広く

社会と連携し合う学校を目指します。

私たちは、学校に関わるあらゆる人たちが、それぞれに大切にする「理想の学校像」を実現できるよう、自立し、共に生き、世界に目を向け、対話を通じて信頼関係を育みます。

7.1.建学の精神

誰もが、豊かに、
そして幸せに生きることのできる
世界をつくる。

私たちの考える「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界」とは、すべての人が「個」として大切にされ、それぞれの違いを認め合い、互いに協働することを通して世界平和に貢献する、自由と責任のある共同体です。この目的を達成するために、私たちは学校を設立し、学校そのものが理想の共同体になることを目指します。なぜなら、そうした環境で学んだ子どもたちこそが、豊かで幸せに生きることができる世界をつくると、私たちは信じているからです。イエナプラン教育が大切にしてきたことには、「児童が自分の特性を活かしながら学ぶこと」「自分自身の学びに責任を持つこと」「年齢も考え方も違う集団の中で協働しお互いに助け合いながら成長すること」「集団の中の誰もが自分らしく生活できるように責任をもって意思決定に参加すること」「自分自身の関心から生まれる問いに基づき自発的に学ぶこと」、そして「身近な自然や地域の人々との関わりといった実社会と地続きの学習環境の中で学ぶこと」などが挙げられます。
私たちの学校は、こうしたイエナプラン教育の経験に学びつつ、日本の教育ならではの豊かさを活かすことで、新たな価値を提供することができると考えています。限られた一部の人のためだけに特殊な教育を行う学校ではなく、学習指導要領に基づいた教育を行う一条校である学校の新たな在り方を示すことも、私たちが目指すことの1つです。
佐久穂町に日本で初めてイエナプラン教育に基づく学校ができることは、公教育の選択肢を増やすという意義を持つと考えています。

7.2.大切にしたいこと

大日向小学校・大日向中学校が大切にする3つのことが実現したとき、自ら「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界」をつくろうとする意志と行動力を持つことができると私たちは信じ、日々子どもたちと共に学んでいきます。

①自立する
個々の発達や個性に合わせた学びを大切にし、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、学びに対する当事者意識を育みます。子どもたちは、それぞれの発達に合った自然な流れの中で、自身の学びに責任を持ち、自ら考え、より良い行動を選択するように成長していきます。

②共に生きる
異年齢での活動を重視し、子どもたちは、私たち人間は多様な存在であること、そして多様な人たちが共に生きるにはどうしたら良いのか（他者との協働）を毎日の学校生活の中で学びます。また、地域社会の多様な大人との関わりを持ち、伝統と文化に触れ、挑戦していくことの大切さを実感するとともに、佐久穂町の自然を最大限に活かし、生命の有限性や自然の大切さを知り、自然や地球との共存についても学びます。

③世界に目を向ける
「対話・遊び・仕事（学習）・催し」といった、日々の暮らしの中で行われている営みを学校の中にも自然な形で取り入れて、理想の共同体を学校の中につくることを目指します。子どもたちは、現実にある本物に触れることを通して、私たちは社会の一員であるということを実感し、世界で起きていることに責任を持って関わるようになります。

7.3.イエナプラン**20**の原則

人間について
1.どんな人も、世界にたった一人しかいない人です。つまり、どの子どももどの大人も一人一人がほかの人や物によっては取り換えることのできない、かけがえのない価値を持っています。

2.どの人も自分らしく成長していく権利を持っています。自分らしく成長する、というのは、次のようなことを前提にしています。つまり、誰からも影響を受けずに独立していること、自

分自身で自分の頭を使ってものごとについて判断する気持ちを持てること、創造的な態度、人と人との関係について正しいものを求めようとする姿勢です。自分らしく成長して行く権利は、人種や国籍、性別、（同性愛であるとか異性愛であるなどの）その人が持っている性的な傾向、生れついた社会的な背景、宗教や信条、または、何らかの障害を持っているかどうかなどによって絶対に左右されるものであってはなりません。

3.どの人も自分らしく成長するためには、次のようなものと、その人だけにしかない特別の関係を持っています。つまり、ほかの人々との関係、自然や文化について実際に感じたり触れたりすることのできるものとの関係、また、感じたり触れたりすることはできないけれども現実であると認めるものとの関係です。

4.どの人も、いつも、その人だけに独特のひとまとまりの人格を持った人間として受け入れられ、できる限りそれに応じて待遇され、話しかけられなければなりません。

5.どの人も文化の担い手として、また、文化の改革者として受け入れられ、できる限りそれに応じて待遇され、話しかけられなければなりません。

社会について

6.わたしたちはみな、それぞれの人がもっている、かけがえのない価値を尊重しあう社会を作っていかなくてはなりません。

7.わたしたちはみな、それぞれの人の固有の性質（アイデンティティ）を伸ばすための場や、そのための刺激が与えられるような社会をつくっていかなくてはなりません。

8.わたしたちはみな、公正と平和と建設性を高めるという立場から、人と人との間の違いやそれぞれの人が成長したり変化していくことを、受け入れる社会をつくっていかなくてはなりません。

9.わたしたちはみな、地球と世界とを大事にし、また、注意深く守っていく社会を作っていかなくてはなりません。

10.わたしたちはみな、自然の恵みや文化の恵みとを、未来に生きる人たちのために、責任を持って使うような社会を作っていかなくてはなりません。

学校について

11.学びの場（学校）とは、そこにかかわっている人たちすべてにとって、独立した、しかも共同して作る組織です。学びの場（学校）は、社会からの影響も受けますが、それと同時に、社会に対しても影響を与えるものです。

12.学びの場（学校）で働く大人たちは、1から10までの原則を子どもたちの学びの出発点として仕事をします。

13.学びの場〈学校）で教えられる教育の内容は、子どもたちが実際に生きている暮らしの世界と、（知識や感情を通じて得られる）経験の世界とから、そしてまた、＜人々＞と＜社会＞の発展にとって大切な手段であると考えられる、私たちの社会が持っている大切な文化の恵みの中から引き出されます。

14.学びの場（学校）では、教育活動は、教育学的によく考えられた道具を用いて、教育学的によく考えられた環境を用意したうえで行います。

15.学びの場（学校）では、教育活動は、会話・遊び・仕事（学習）・催しという4つの基本的な活動が、交互にリズミカルにあらわれるという形で行います。

16.学びの場（学校）では、子どもたちがお互いに学びあったり助け合ったりすることができるように、年齢や発達の程度の違いのある子どもたちを慎重に検討して組み合わせたグループを作ります。

17.学びの場（学校）では、子どもが一人でやれる遊びや学習と、グループリーダー（担任教員）が指示したり指導したりする学習とがお互いに補いあうように交互に行われます。グループリーダー（担任教員）が指示したり指導したりする学習は、特に、レベルの向上を目的としています。一人でやる学習でも、グループリーダー（担任教員）から指示や指導を受けて行う学習でも、何よりも、子ども自身の学びへの意欲が重要な役割を果たします。

18.学びの場（学校）では、学習の基本である、経験すること、発見すること、探究することなどとともに、ワールドオリエンテーションという活動が中心的な位置を占めます。

19.学びの場（学校）では、子どもの行動や成績について評価をする時には、できるだけ、それぞれの子どもの成長の過程がどうであるかという観点から、また、それぞれの子ども自身と話し合いをするという形で行われます。

20.学びの場（学校）では、何かを変えたりよりよいものにしたりする、というのは、常日頃からいつでも続けて行わなければならないことです。そのためには、実際にやってみるということと、それについてよく考えてみることとを、いつも交互に繰り返すという態度を持っていなくてはなりません。

7.4.法人概要 （2023年3月31日現在）

法人名	学校法人茂来学園
設置校	大日向小学校 大日向中学校
所在地	長野県南佐久郡佐久穂町大日向1110
理事	中正雄一（理事長） 久保礼子（小学校長） 長沼豊（中学校長） 長尾彰 麻雅幸 西尾伸介
監事	佐藤真太郎 古内耕太郎
評議員	石川禅 岡田武史 北澤彰浩 斉藤賢爾 鈴木寛 田邉佳代子

	中川敬文 根木慎志 野田雅之 藤井祐剛 上岡美里 田口彩人 内保亘 宅明健太 潮田都 吉富一九子 関康平 久保礼子 長沼豊 中正雄一 長尾彰

7.5.1.職員組織（2023年3月31日現在）

大日向小学校	大日向中学校
久保礼子（校長） 宅明健太（教頭） 秋山真一郎 佐藤麻里子 原田友美 福田健 細萱彰 内田一哉 吉富一九子 稲井咲紀 川村恵梨奈（養護教諭） 安井瑞季 馬場美穂 山西隆治 小池早苗 後藤資幸 潮田都 松本菜穂 大村麻弥	長沼豊（校長） 関康平（教頭） 倉島徹生 野村源太 小石川瞳 伊藤太一 会田真夕（養護教諭） 田村悠子 増田佑太 太宰文緒 伊藤真利奈 井出翔太 福畑皓生 小口真奈実（業務委託） 河合計幸（業務委託）

原直希 内田信子 柳橋絹子 青山光一（業務委託） 高橋民子（業務委託）	

7.6.在籍数（2022年4月1日現在）

小学校　154名（1年生29名、2年生31名、3年生27名、4年生28名、5年生23名、6年生16名）

中学校　　22名（1年生13名、2年生4名、3年生5名）

以上